

AIAA 通信衛星システム国際会議 開会式来賓挨拶

平成15年4月16日(水)パシフィコ横浜

総務省大臣官房技術総括審議官石原秀昭

総務省 大臣官房 技術総括審議官 石原です。

本日、「第21回 AIAA 通信衛星システム国際会議」の開催に当たり、世界各国の衛星通信技術の研究開発に携る専門家の皆様をお迎えし、開催国政府を代表してご挨拶申し上げる機会を頂きましたことを、誠に光栄に存じます。

20世紀後半以降の宇宙開発に伴い、衛星通信技術は急激な発展を遂げ、今日では、グローバルなテレビニュース報道や船舶、航空機そして自動車など移動体でのマルチメディア通信に幅広く活用されております。

最近では、衛星通信機器の小型化、高性能化によって、列車運行管理システムや山小屋に設置したクレジットカード認証システムなどにも利用が広がっており、今後一層、中小企業及び個人にも利用が進むものと考えております。

このような状況のなか、アメリカ航空宇宙学会が「衛星通信がもたらす情報インフラへのインパクト」をテーマとした国際会議を開催されることは、非常に有意義なことと考えております。

我が国の情報通信政策におきましても、衛星通信技術の研究開発は、重要なキーワードとなっております。

今年3月、日本政府は、「アジア・ブロードバンド計画」を作成し、「2010年までに、アジアの全ての人々がブロードバンドにアクセスできるようにする。」ことを目標に掲げました。

険しい山岳地帯、広大な大洋に島々が点在するアジア太平洋地域において、この目標の実現を図るためには、光ファイバなど地上系通信インフラだけでなく、地上の地形に影響
Space Japan Review, No. 28, April / May, 2003

を受けにくい衛星通信技術の活用が必要不可欠であることから、光ファイバと同等のブロードバンド通信環境を実現する「超高速インターネット衛星」の研究開発を進めており、2005年には、実証実験を目的とした衛星の打上げを予定しております。

また、高仰角の衛星によりシャドーイングがなく高品質の通信・放送・測位を実現する「準天頂衛星システム」についても研究を開始したところです。

今回の会議には、日本、北米、西欧などの先進国だけでなく、開発途上国を含む全世界から衛星通信技術の研究開発に携る専門家の皆様がお集まりになり、様々な衛星通信技術について、議論を行なうとお聞きしております。

この機会に、(各国の衛星通信技術の)専門家の皆様方の衛星通信技術の発展に対する日々のご貢献に、心から敬意を表したいと存じます。

我が国といたしましては、今後、超高速インターネット衛星や準天頂衛星システムの実証実験に当たっては、海外の専門家の皆様に参加の機会を広く提供することなどにより、一層の連携を図り、世界全体の衛星通信技術の発展に積極的に貢献して参りたいと考えております。

海外からお越しの皆様方におかれましては、会議を通じてこれら我が国の衛星開発の現状について、ご理解を深めていただきますことは、もとより、今回の日本での滞在が快適なものなりますことを希望いたします。

最期になりましたが、本会議の開催に当たりご尽力いただきました AIAA の Butash さん、独立行政法人通信総合研究所の飯田理事長、そして、開催実行委員会の皆様にご感謝申し上げます。

そして、ご出席の皆様方による活発な討論によって、衛星通信技術の一層の発展が促進されますことを祈念して、挨拶とさせていただきます。